

■ 令和元年度決算概要

令和元年度は、学生生徒納付金と補助金の増額に加え、学園全体での経費節減を徹底したことで、施設設備費用を大幅に増やしたにもかかわらず、次年度繰越金は5年連続の増加、事業活動収支も3年連続の黒字となりました。

決算概要は下記のとおりです。

1. 資金収支計算書

資金収支計算書は、学園の1年間の教育活動その他の諸活動のすべてを資金の動きで捉えたもので、当該会計年度における収入と支出の内容、ならびに支払資金（現金預金）の収支の顛末を明らかにしています。

令和元年度決算は、資金収支差額で250百万円の黒字を確保し、翌年度繰越支払資金は1,827百万円となりました。

収入において、特に大学入学者の増加に伴う学生生徒等納付金収入が増えたことと、長野県に所有していた遊休地の売却収入があり、支出では、有明と花小金井の両キャンパスの改修工事等に伴う施設設備費用の増加はあったものの、教育研究経費・管理経費の節減に加え、借入返済が減少したこと等が主な要因です。

【第1表】

資金収支計算書

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

(単位 百万円)

収入の部			
科 目	30年度 決算	元年度 決算	差異
学生生徒等納付金収入	2,122	2,208	86
手数料収入	48	61	13
寄付金収入	34	32	△ 2
補助金収入	515	623	108
その他収入	526	565	39
資金収入調整勘定等	△ 431	△ 389	42
前年度繰越支払資金	1,335	1,577	242
収入の部合計	4,149	4,677	528
支出の部			
科 目	30年度 決算	元年度 決算	差異
人件費支出	1,784	1,711	△ 73
教育研究・管理経費支出	667	728	61
借入金等利息支出	14	12	△ 2
借入金等返済支出	87	87	0
施設・設備関係支出	66	253	187
資産運用支出	0	0	0
その他の支出	83	156	73
資金支出調整勘定等	△ 129	△ 97	32
翌年度繰越支払資金	1,577	1,828	251
支出の部合計	4,149	4,677	528
資金収支差額	242	250	9

2. 事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、学園財政の健全性を見るもので、当該年度の活動に対応する事業活動収入および事業活動支出の内容、さらに基本金組入後の均衡の状態を明らかにしています。企業会計でいえば損益計算書に相当しますが、学校法人は営利目的ではないため、収支の均衡を目的としています。

令和元年度決算においては、経常収支で219百万円の黒字を確保しました。基本金組入前当年度収支差額は前年度に続き100百万円台を維持し、安定した収支を実現しました。長野県の遊休地売却に伴う資産売却差額△88百万円を特別支出に計上しています。

【第2表】

事業活動収支計算書

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

(単位 百万円)

	30年度 決算	元年度 決算	差異
教育活動収入	2,839	2,950	111
学生生徒等納付金	2,122	2,208	86
手数料	48	61	13
寄付金	34	32	△ 2
補助金	515	595	80
その他収入	120	54	△ 66
教育活動支出	2,721	2,719	△ 2
人件費	1,792	1,728	△ 64
教育研究・管理経費	929	991	62
教育活動収支差額	118	231	113
教育活動外収入	0	0	0
受取利息・配当金他	0	0	0
教育活動外支出	14	12	△ 2
借入金利息他	14	12	△ 2
教育活動外収支差額	△ 14	△ 12	2
経常収支差額	104	219	115
特別収入	2	28	26
資産売却差額	0	0	0
その他の特別収入	2	28	26
特別支出	4	95	91
資産処分差額他	4	95	91
特別収支差額	△ 2	△ 67	△ 65
基本金組入前当年度収支差額	102	152	50